

2026年(令和8年)5月17日(日曜日)

進路指導に役立てて

東北能開大
秋田校 大館市内企業の講話も

秋田職業能力開発短期大学校(奥山栄樹校長、愛称・東北能開大秋田校)は14日、同校で教育関係者を対象とした説明会を開いた。高校の進路担当者ら18人が参加し、講話や施設見学などを通じて同校の教育内容や人材育成に理解を深めた。

進路指導に役立ててもらい、ものづくりの現場で必要な人材を知ってもらおうと毎年開催。これまで高校の進路



講話などが行われた説明会
(東北能開大秋田校)

担当者やハローワークの職員向けに開いていたが、今回は進路選択に大きな影響を持つ保護者にも対象を広げた。

講話では、製袋機や自動包装機などの製造・販売を手がけるニューロン工業(本社・東京都)の長健人取締役が登壇。創立当初は麻袋用、ミシンの製造・修理を行っていたことに触れ、「時代の流れと共に麻から紙袋へと需要が変わった」と業界の変遷を紹介した。

また、設計・製造・販売・アフターメンテナンスまで一貫して担う体制を強みとして挙げ、「部署が多いため、幅広い分野で活躍できる」と説明。「私たちがつくっているのは発展。欠かせないものは新しい発想と柔軟な感性」と述べ、ものづくり分野を志す若者に期待を寄せた。

講話後には生産機械技術、電子情報技術、住居環境3科の施設見学や入試案内などが行われた。